

小学校「第2学年」音楽科学習指導案

指導者 三次市立三次小学校
教諭 加藤 則江

- 1 概要 ○日時：平成17年10月27日（木）9：30～10：15
○対象：第2学年1組（29名）
○場所：三次市立三次小学校 図書室



2 題材名

「パンプキンミュージック」 ～いい音見つけて～

（全8時間扱い）

3 学習指導要領の内容との関連

- A 表現 （3）イ 身近な楽器に親しみ、簡単なリズムや旋律を演奏すること。
（4）イ 即興的に音を探して表現し、音遊びを楽しむこと。
B 鑑賞 （1）ウ 楽器の音色に気を付けて聴くこと。

4 題材の目標

- 音色の違いを生かして音の組み合わせ方を工夫し、音楽づくりを楽しむ。
- 音や響きの違いに気付いたり、音の出し方を工夫したりして、イメージに合った音楽を表現する。
- 音や響きの違いを感じ取って、そのよさやおもしろさを味わう。

5 題材設定の趣旨

（1）題材観

本題材は、音楽を聴いたり表現したりする活動を通して、楽器の音色や響きの違いを感じ取る感性を育てていくことをねらいとして設定した。

音楽をつくるためには、音そのものが持つ属性に気付いていることが必要である。音の属性とは、音色、大きさ、高さ、加えて長さである。中でも音色は、その物がもつ固有なものであり、物の構造や材質等の特徴によって発せられるものである。また、その音色は音の出し方によって変化させることもできるものである。したがって、楽器や身の回りの物の音色に着目させることは、音色の違いを感じ取らせたり、音の響きを聴いてイメージを膨らませたりすることに有効な手段となり得る。具体的には、鳴らす場所を変えたり、“打つ、振る”など音の出し方を工夫したりすることで、色々な音を探して、多くの音色を実感させることが大切となると考える。これらの活動を通して、音色や響きの違いを感じ取る力や音の響きによって表される様々な思いや情景などを想像する力を育てることができると考える。

（2）児童観

本学級の児童は、第1学年の時から歌うことが好きで、自然に体を動かして楽しんでおり、打楽器や鍵盤ハーモニカなどの演奏も好きである。楽器を演奏したり、音楽をつくって表現したりする活動について、第1学年時は、音を感じてイメージを持ったり、描いたイメージを音で表現したりする活動を展開した。しかし、自由な身体表現や創作活動になると、積極

的に参加しない児童もみられた。第2学年になってから、毎時間の導入に音楽ゲームをしたり、ふしづくりやリズム打ちなどを繰り返して行ったりする中で、自信を持って一人でも演奏できる児童が増えてきている。

(3) 指導観

指導に当たっては、身近な打楽器や身の回りの物を使って、基本的な奏法を学ばせながら音色の違いを感じ取らせ、奏法を変えることによって音色が変化することの楽しさに気付かせたい。

「かぼちゃ」の音楽づくりでは、自分たちで育てたり、いただいたりして集めた実物のかぼちゃや写真などを用意し、児童のイメージを豊かに膨らませるようにしたい。また、リズム伴奏を工夫する場面では、子どもたちの自由な発想を大切にしながら、音色・速さ・強弱などを指導していきたい。さらに、同じ鑑賞曲を本題材の冒頭と終末部分で聴かせる。音楽づくりを通して身に付けた音楽的諸能力を生かさせるようにすることで、終末の鑑賞では、リズムや旋律、速さなどについて新たな発見をさせたい。

6 教材と教材選択の理由

(1) 教材名

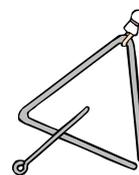
《楽器》大太鼓、小太鼓、タンブリン、でんでん太鼓、和太鼓

木魚、ウッドブロック、クラベス、カスタネット、木の板

シンバル、あたりがね、鈴、空き缶、トライアングル、カウベル、フライパン、石、皿

《楽曲》「シンコペーテッドクロック」 アンダソン作曲

「かぼちゃ」 黒沢吉徳作曲



(2) 教材選択の理由

「シンコペーテッドクロック」 アンダソン作曲 **B(1)ウ**

ときおり不規則に時を刻む時計の様子をおもしろおかしく音楽化した作品であり、色彩豊かなオーケストラの曲を聴いて、色々な楽器の音色を味わうことができる。

「かぼちゃ」 黒沢吉徳作曲 **A(3)イ** **A(4)イ**

身近な打楽器などでつくった音を、歌と合わせて楽しむことのできる教材である。自分のイメージしたかぼちゃを歌や音で表現する活動を通して、音遊びを楽しませることができる。

(3) 「いい音探検隊」について

大きく三つ（皮、木、金属）の素材に分類できる楽器を、それぞれ島に分けて配置する。児童は様々な楽器の音を確認しながら奏するとともに、奏法や鳴らす場所によって変わる音の変化に耳を傾け、それらの音を聴き分けながら、その音はどんな材質の物から出ているのかを知ろうとする音に対する関心を高めることができる。

「シンコペーテッドクロック」で色々な音に気付き、「いい音探検隊」で身近な打楽器の音色や奏法を経験し、それを「かぼちゃ」での楽器演奏に生かすことができるよう活用したい。



7 題材の評価計画

(1) 題材の評価規準

□ Aと判断する子どもの姿

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱			○	
器楽		○	○	
創作	◎	◎	○	
鑑賞	○	○		◎
題材の評価規準	<p>いろいろな音や響きに関心を持って聴いたり、進んで音を探したりしようとしている。</p>	<p>音色や響きの違いを感じ取って、音の出し方や組み合わせ方を工夫している。</p>	<p>音の出し方を工夫しながら、拍の流れに乗って打楽器などを演奏している。</p>	<p>いろいろな楽器の音色や響きの違いを感じ取りながら聴いている。</p>
学習活動における具体的評価規準	<p>① 音楽から聴こえてくる、いろいろな音に関心を持っている。 □ 進んで多くの楽器の音に耳を傾けている。</p> <p>② 音色の違いに関心を持ち、音探しを楽しんでいる。 □ 進んで多くの楽器に触れている。</p> <p>③ イメージをふくらませて自分たちのかぼちゃの歌詞を考えようとしている。 □ 進んでイメージに合った歌詞を考えている。</p>	<p>① 楽器の音色の違いやリズムのおもしろさを感じ取って聴いている。 □ 楽器の音色や響きのよさを感じ取って進んで感想を述べている。</p> <p>② 音色に気を付けながら、リズム打ちを工夫している。 □ いろいろな音の出し方や音色の組み合わせを工夫している。</p> <p>③ 自分たちの歌のイメージに合った音や楽器の組み合わせを工夫している。 □ 自分の思いが表現できるように進んで工夫してい</p>	<p>① 拍の流れに乗って歌っている。 □ 歌が休みの部分も、常に拍の流れを感じ取って、歌っている。</p> <p>② 拍の流れに乗って、打楽器を演奏している。 □ メロディーに合ったリズム打ちを友達に教えている。</p>	<p>① 楽曲全体の構成のおもしろさを味わって聴いている。 □ 音の強弱や主な旋律の繰り返しなどに気付いている。</p> <p>□ 多くの楽器の音色に気付いている。</p>

		る。 ④ 工夫したところに気を付けながら、友達の演奏を聴いている。 <input type="checkbox"/> 音の組み合わせとともに奏法の工夫を感じ取っている。		
--	--	--	--	--

(2) 評価方法

- A ビデオ撮影 B 学習カード C 感想発表 D 表情や態度の観察
 E 演奏の聴取 F グループ活動の観察

8 指導と評価の計画 (全8時間)

次	過程	ねらい, 働きかけ等	学習活動の流れ (○) と 予想される児童の反応 (◇)	具体的 評価規準	評価 方法
第一次 (2時間) 「シンコペーテッドクロック」	気付く	<input type="checkbox"/> いろいろな楽器の音色の違いを感じ取る。 	いろいろな音に気を付けて聴こう。 <input type="checkbox"/> 「シンコペーテッドクロック」を CD で聴き, どんな音が聴こえたか話し合う。 <input type="checkbox"/> とけいの音みたい。 <input type="checkbox"/> かわいいきょくだね。 <input type="checkbox"/> おどってみたいな。	ア①	B C D
		<input type="checkbox"/> ウッドブロックのリズムのおもしろさに気付く。 	<input type="checkbox"/> 音楽に合わせて指をメトロノームのように動かしながら聴く。 <input type="checkbox"/> とちゅうでリズムがちがうところがある。 <input type="checkbox"/> きょくのかんじがちがうね。 <input type="checkbox"/> さいごは時計がこわれたみたい。	イ①	B C D
第二次 (2時間)	つかむ	<input type="checkbox"/> いろいろな打楽器の中から好きな楽器を見つけて音の出し方を工夫する。 	たくさんの音を見つけよう。 <input type="checkbox"/> 様々な材質の楽器を鳴らしてみる。 <input type="checkbox"/> かわがはってある楽器 <input type="checkbox"/> 木でできている楽器 <input type="checkbox"/> 金ぞくでできている楽器 <input type="checkbox"/> 奏法の違いで音色が変わることに気付く。 <input type="checkbox"/> 強くたたいたときと, 弱くたたいた	ア②	B D

<p>○ 自分たちのかぼちゃに合った歌詞を考え、イメージをふくらませる。</p> <p>どんなかぼちゃを表したい？</p> <p>○ イメージに合った楽器の音色を見つける。</p> <p>イメージに合う楽器を探そう。</p>	<p>自分たちのかぼちゃの歌をつくろう。</p> <p>○ セブグループに分かれて表現したいかぼちゃについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 大きなかぼちゃ ◇ 小さいかぼちゃ ◇ ごつごつしたかぼちゃ ◇ たくさんのかぼちゃ <p>○ イメージに合う楽器を探す。</p> 	<p>ア③</p>	<p>B F</p>
<p>○ 音色の違いを生かしたり、音の組み合わせを工夫したりする。</p> <p>音を出す順序や組み合わせを考えよう。</p> <p>工夫するともっと楽しいパンプキンミュージックになるよ。</p> <p>本時</p>	<p>つくろう！！パンプキンミュージック。</p> <p>○ リズム打ちのパートを打楽器で演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループに分かれて自分たちのつくったかぼちゃの歌のイメージに合うように選んだ楽器の音色を生かして、リズム・速度・強弱などを工夫する。 ◇ 大きいかぼちゃは長くのばそう。 ◇ 小さいかぼちゃはかわいい音がいいな。 	<p>イ③</p>	<p>B F</p>
<p>○ 自分たちのかぼちゃの歌を表現する楽しさを味わう。</p> <p>楽器の演奏はかぼちゃのイメージに合っていたかな。</p> <p>工夫していたところはどこですか？</p> <p>味わう</p> <p>○ 「シンコペーテッド</p>	<p>パンプキンコンサートをしよう。</p> <p>○ 音色の違いを生かし、音の組み合わせを工夫して歌に合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに発表する。 ・ 感想を発表しあう。 ◇ ○グループはだんだん音を大きくしていたので大きなかぼちゃの感じがしたよ。 ◇ ○グループは小さく速く鳴らしていたので小さいかぼちゃの感じがしたよ。 <p>○ 「シンコペーテッドクロック」を聴</p>	<p>イ④</p>	<p>A B F C</p>

	<p>クロック」を聴いて、 楽曲の構成のおもしろ さに気付く。</p>	<p>く。 ◇時計が出てくる部分は、ほかの音が だんだん小さくなったよ。</p> 		F
--	---	---	--	---

9 本時の指導と評価（第三次 3時間目）

(1) 本時の目標

自分たちのかぼちゃのイメージに合った楽器の音や組み合わせ、リズムづくりを工夫する。

(2) 準備物

打楽器、ワークシート、学習カード、かぼちゃ

(3) 本時の展開

<p>学習内容・学習活動</p> <p>☆：教師の働きかけ ★：児童の行動・発言・つぶやき</p>	<p>指導上の留意点</p>	<p>評価規準</p>
<p>1 既習曲を歌う。 ○「虫のこえ」「やさしさのたまてばこ」 ☆優しい声で歌おう。</p> <p>2 音楽ゲームをする。 ☆ 手拍子回しをするよ。 ☆ 言葉でリズム遊びをしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 顔の表情に気を付けて、ていねいに歌わせる。 楽しい雰囲気作りに努める。 	
<p>つくろう!! パンプキンミュージック</p>		
<p>3 楽器の音色の違いを生かし、音の組み合わせを工夫して演奏する。 ☆ 自分たちのかぼちゃをどんな音で表すのかな。イメージに合わせてリズムも考えてみよう。 ★ 大きいかぼちゃの音はだんだん大きくしたらいいかな。 ★ 大きいかぼちゃだから、少しゆっくりしたほうがいいかな。 ★ 大きいかぼちゃは長くのぼそう。 ★ 小さいかぼちゃはかわいい音がいいかな。 ★ 小さいかぼちゃは♪にしよう。 ★ 少し速いテンポでやってみたら弾んだ感じになるかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各グループにワークシートを用意しておく。 各グループのかぼちゃのイメージを確認させ、イメージに合った音色・速度・強弱などを工夫するよう声かけをする。 	<p>イ③</p>

☆ 自分たちがつくった音楽を発表してみよう。

☆ 他のグループの工夫を聴いてみよう。

★ ○グループはだんだん音を大きくしていたので大きなかぼちゃの感じがしたよ。

★ ○グループは小さく速く鳴らしていたので小さいかぼちゃの感じがしたよ。

4 学習カードを書く。

5 次時の予告を聞く。

・ 特徴的な音楽をつくったグループに発表させる。

・ 楽器の音や組み合わせ，鳴らし方を工夫しているところを評価する。

・ 新しい発見や気づきを中心に書かせる。

・ 意欲を喚起するような言葉かけを行う。